

ごぞんじですか？ “ボラ基金”

ボランティア活動の
材料を買うことが
できた

基金を使って
新しいイベントが
できたよ



NPO 法人の
立ち上げが
できた

子ども食堂に
手洗い場を
作れた！

平成28年度

大阪市ボランティア活動振興基金・報告

大阪市ボランティア・市民活動センター／大阪市
(社会福祉法人大阪市社会福祉協議会)

1. はじめに

大阪市ボランティア活動振興基金は昭和 55 年から開始され、すでに 38 年間の事業になります。

この基金は地域住民、NPO や市民団体等の活動を推進する役割を担っています。
この間の交付団体総数はのべ 6,790 件、交付総金額は 949,738,360 円となっています。
今回この基金をもっと多くの団体に、よりよい基金として活用していただくため、
平成28年度報告書を作成しました。

❀ 大阪市ボランティア活動振興基金とは ❀

わたしたちのまち大阪を「人間性豊かな福祉社会」にしていくためには、公的な福祉サービスの充実とあわせて、広く市民の皆さんにボランティアの輪を広げていただくことが大切です。

公的なサービスと、ボランティア活動との協働によって、より大きな福祉効果をあげることができます。ボランティアの自主性を尊重しつつ、その活動を支援するため「大阪市ボランティア活動振興基金」を設置しています。

— 目 次 —

- 1 はじめに2
- 2 基金を受けてこんな活動ができました!3
 - ～平成28年度基金交付のあった団体の事業報告～
 - おおさか みやこじま おもちゃ病院
 - 都島おはなしサークルシフカ・ブルカ
 - 子育て応援オ・ハ・ナ
 - Mam's Wind Orchestra「clover」
 - 特定非営利活動法人 志塾フリースクール
 - NPO法人 リバイブ・ハウス
 - 特定非営利活動法人 認知症の人とみんなのサポートセンター
 - 特定非営利活動法人 カウンセリングサポートナウ
 - NPO法人 女性と子育て支援グループ・pokkapoka
 - NPO法人 おひさま
- 3 説明会・交流会を開催しました。13
 - ～平成29年度大阪市ボランティア活動振興基金 説明会&交流会報告～
- 4 もっと基金を知ろう! ～資料～14
 - アンケートの集計結果
 - 大阪市ボランティア活動振興基金の種類
 - 申請から交付・報告までの流れ

平成28年度基金交付団体の事業報告

2. 基金を受けてこんな活動ができました!

助成事業名

ボランティア活動の拡大
ボランティア活動促進事業

団 体 名

「おおさか みやこじま おもちゃ病院」

活 動 内 容

おもちゃの修理

❀ おもちゃと子どもを愛する活動

おもちゃ修理と、子どもと遊ぶことが好きな会員が、子ども・子育てプラザを拠点に、おもちゃの修理をしています。メンバーは全員男性で、60代以上がほとんど。中には高校生のときから参加している若手もいます。前職はモノづくりに携わっていた人もいますが、まったく関係ない人も活動しています。

❀ “ドクター” たちのネットワーク

28 年度は講習会を開催し、会員は 8 名増えて全員で 16 名になりました。講習会を受けたのちに“ドクター”として活動します。講習会の講師は会員が務め、受講料は無料にしています。大阪市内でおもちゃ病院として活動する 17 区 18 団体が任意に設立した「大阪おもちゃ協議会」のネットワークで情報の共有や、相互協力を行っています。

❀ 部品が手に入らず持ち出しに… 日本のおもちゃの現実

基金は、交通費や部品代として活用しました。修理は基本無料です。部品代として料金を頂いても 100 円程度で、それ以上の金額は考えていません。修理が困難そうでも一旦は入院（持ち帰り）し、時間がかかっても修理しますが、部品が高額になる場合やどうしても無理なものは、修理を断念することもあります。おもちゃは外国の工場で作られることが多いので、部品の入手が難しく、メーカーに問い合わせてもそのおもちゃ自体を知らなかったり、手に入るとしても高額になってしまう場合があります。修理するとは考えられていないのです。ほとんどの部品は、持ち出しで購入したり、個人で集めたおもちゃをリサイクルで使ったり、自作して購っています。ボランティア活動からおもちゃ事情が見えてきます。



おもちゃの修理をするボランティア

団体の声

「子ども達の物を大事にし、おもちゃに愛着を持つ心を大切にしていきたい。子どもたちの中には、お気に入りのおもちゃを手放すとき大泣きする子もいる。修理できたおもちゃを手渡すときの、子どもたちの喜ぶ姿がうれしいです。」

助成金額 50,000 円
設立年月 2008 年 4 月
活動拠点 都島区

助成事業名

ボランティア活動の拡大
ボランティア活動促進事業

団体名

「都島おはなしサークル
シフカ・ブールカ」

活動内容

子どもへのおはなし（ストーリーテリング）
絵本読み聞かせ等



図書館で子どもたちにおはなしを伝えます

子どもたちにおはなしを届ける

子どもたちの健やかな成長を願って「おはなし会」を行い、おはなし（ストーリーテリング）や絵本の楽しさを子どもたちに届けています。20年以上の活動実績があるため、広く依頼があり、小中学校・図書館・小児病棟・地域の集会所などいろいろな場に出向いて活動をしています。

月2回の勉強会を続けています

基金は、活動にかかる交通費や保険料、文房具、書籍代などに活用しました。シフカ・ブールカでは、月2回の定例会を勉強の場とし、メンバー同士でおはなしの選び方や子どもたちへの伝え方について意見交換やアドバイスをしあっています。ボランティアではありませんが、子どもたちの心に届くおはなしを目指して、みんなで勉強会を続けています。

「生きる力」を語り継ぐことの大切さ

昔話は、長い年月を経て口伝えで受け継がれてきたものです。わたしたちは、昔は自然と「おばあちゃん」の話を聞いていました。今、昔話を語り継ぐという意識が少しずつ広まり、語り手のための本がたくさん出版されています。昔話は「生きる力」を描いているものが多く、困ったときに誰かが助けてくれること、生きていたら幸せになれるといったことを、最初から教訓として押し付けるのではなく、自然と聞きやすいようにできています。長く語り継がれているというのは、やはりそれだけ面白さがあります。

助成事業名

ボランティア活動の拡大
ボランティア活動促進事業

団体名

「子育て応援オ・ハ・ナ」

活動内容

子育て支援活動と見守り保育全般
地域の親子との世代間交流を図る

さまざまな活動で子育てを支える

児童相談所の保育ボランティアの活動を引き継いで団体を立ちあげ、保育ボランティアや子ども服のリサイクル、世代間交流など、子育てに関わるさまざまな活動をしています。お母さんたちが子ども・子育てプラザなどでヨガや講習会に参加している間の一時保育や、見守り保育の依頼を受けたり、つどいの広場での世代間交流「ばあばのひ」は、おばあちゃん世代の会員が親子と簡単な工作で交流をしたり、公園で外遊びなどをする活動です。自主事業として親子で楽しむ芋ほり、不要になった子ども服をリサイクルする“福まわし”は、子育て中のメンバーの声から生まれました。

それぞれの考え方を 尊重しあうことが大切

基金は、手作りおもちゃや七夕飾りの材料費、芋ほりの畑の賃借料、ボランティアの保険料や交通費などに活用しました。安定した活動を続けるためには、メン

バー同士のコミュニケーションが大切であると考え、ミーティングを行い、共有しています。メンバーそれぞれの感覚の違いを尊重しながら、安全性を一番に考えるようにしています。また、いろいろな場面で子育て中のお母さんたちと触れ合い、楽しい時間を過ごしています。

子どもとコミュニケーションを とりながら…

一時保育の場では、子どもに丁寧に声をかけてコミュニケーションを取り、メンバー同士もやりとりをしながら、お母さんたちのリフレッシュを応援しています。



“福まわし”の服に囲まれるボランティア

団体の声

「生の声を聞くことは、人間のふれあいであり、とても大切なものです。小学校での1年1回の出会いであっても、子どもたちは6年間ずっと覚えていてくれます。楽しい時間を共有する空気感と、何か心に残ってくれることを願い、活動を続けています。」

助成金額 50,000 円
設立年月 1992 年1月
活動拠点 北区、都島区、
旭区など

団体の声

「保育の難しさは、そのときどきで違うこと。同じ子どもを預かって、そのときの子どものコンディションで様子は違います。お母さんたちが、安心して子どもを預けることができ、気持ちをリフレッシュすることに役立てることをうれしく感じています。」

助成金額 45,000 円
設立年月 2007 年 10 月
活動拠点 西区

助成事業名

ボランティア活動の拡大
ボランティア活動促進事業

団体名

「Mam's Wind Orchestra [clover]」

活動内容

幼稚園・保育園・高齢者施設で吹奏楽の
訪問演奏、年1回の定期演奏会



演奏会では、息の合った音楽を届けます

お母さんが中心の吹奏楽団

結婚や出産などで吹奏楽から離れたが、再び演奏したいと思い、子連れでもできる音楽活動をしようという呼びかけから、活動が始まりました。主に幼稚園・保育所で訪問演奏しています。家庭と子育てのリズムを大切にしながら、吹奏楽で赤ちゃんから大人まで楽しめる暖かい演奏を目指しています。また、ここ2～3年は高齢者施設からの依頼が増え、演奏を聴いて歓声を上げる子ども達とは対照的に、静かに涙している利用者の姿はとても新鮮で、改めて音楽のすばらしさを感じる機会になりました。

練習場所の確保が課題

基金は、練習場所の賃借料や、楽譜代に活用しました。大きな音が出るため、練習できる場所は限られており、場所の確保は課題となっています。子育てしながらの活動のため、演奏依頼を受けてもメンバーが揃わないことや、時間帯が合わず訪問できないこともありますが、できる限り要望に応えたいと考えています。

子どもをつれて練習や施設訪問できるように

8人で始めた活動は、現在50名程度になり一定数を保っていますが、普段からメーリングリストやSNSで双方向のコミュニケーションをとり、あまり練習に参加できていない会員とも情報を共有できるようにしています。また、楽器パートごとにリーダーがいて、グループ間でケアができることは吹奏楽の良いところです。毎年の定期演奏会には子どもと共にほぼ会員全員が参加しています。練習中には子ども同士で世話をしたりする場面も見られ、メンバーにとっては、音楽に限らず、子育てや仕事のことなどの話をする場にもなっています。

助成事業名

参加しやすいしくみづくり
社会参加システムの構築支援事業

団体名

「特定非営利活動法人
志塾フリースクール」

活動内容

悩みや不安をかかえる児童・青少年と
支援団体等をつなげる「支援マッチングアプリ」事業

悩みを抱える子どもたちを支援

大阪市内では2ヶ所のフリースクールを開設。何らかの理由で不登校に陥ってしまった子どもたちに教育機会の充実、既存教育における補完的役割を担うことを目標にしています。居場所のみならず学習支援・体験活動を通じて子ども達の不安や悩みを、笑顔・自信と前進する力に変え、自立につなげていくことを目指しています。

アプリを支援の入り口に

不登校など悩みや不安を抱える児童・青少年を支援する団体はあるものの、本人が必要とする支援団体にたどり着くことは容易ではありません。そこで、基金を受け、普及率の高いスマートフォンを活用した無料アプリを公開することで支援に繋がりをやすくすることを狙い、スマートフォンを活用したアプリ「支援マッチングアプリ ファースト・ステップ」を開設しました。

顔の見える関係づくり

アプリでは、無料相談や必要な資源とつながる事ができ、既存の悩み相談サイトとは異なる「顔の見える責任あるアドバイス」は、今後の悩み相談の主流になると考えています。関係団体はアプリを通して、子ども達の悩みを共有し、これらの問題を深く考えていくなか、ネットワークを強める事にもつながりました。今後は、こどもたちの悩みや問題を吸い上げる重要なツールとして認識し、展開を進めていきます。



アプリ改善のための会議のようす

団体の声

「『聴く方、演奏する方、みんなが幸せを感じてほしい』をモットーとして活動しています。赤ちゃんや小さなお子さんがいても入団可能なので、訪問演奏で喜んでいただくだけでなく、自分たちも親子で音楽を楽しむ場となっています。」

助成金額 50,000 円
設立年月 2006 年 11 月
活動拠点 住吉区

団体の声

「24 時間以内に対応するためのアドバイザーの人員数と提供できる情報の充実が急務で、今後は、幅広い相談に応じるために、専門家や専門的な機関の開拓をしていきたい。現在は当法人の会員限定でリリースしているが、テスト期間は終了し、アプリの有効性が認められたため、この課題をいち早く克服して、広報に努めていきたいと思っています。」

助成金額 2,872,800 円
設立年月 2006 年 11 月
活動拠点 旭区、西成区

助成事業名

参加しやすいしくみづくり
社会参加の空間整備支援事業

団体名

「NPO法人リバイブ・ハウス」

活動内容

支援が必要な地域の子どもたちの
居場所づくり



公園に足を運び、子どもたちと関係を作ります

✿ 食育の必要性からこども食堂を開設

団体では刑務所や少年院からの出所者の生活支援をしています。これは、非行に走った中高生が施設を出たあとの受け皿がないことがきっかけのひとつです。決して見捨てない、必ず受け入れる、長期間をみすえて回復することを本人と一緒に育んでいきます。そして長年の活動から、大人になってから生活習慣を変えることは難しく、子どものころからの食育の必要性を感じ、子どもたちの居場所づくりに取り組みました。

✿ 公園にいる子どもたちから 見えてきたもの

小学校や地域と連携するとともに、実際に公園に足を運んで子どもたちと関係を作ることを続けています。いつもベンチで寝ている子、ずっと同じ服装の子、水飲み場で服を洗う子、家族の関わりに問題がある子…。子どもたちと触れ合う中で様々な背景や暮らしが見えてきました。こども食堂を始めたころは、公園で声をかけても子どもたちには警戒心がありました

が、今では、開催日以外にも居場所を求めてやってくる子どもがいます。

✿ 卒業した子どもがボランティアに

基金を活用し、食事を提供するための厨房のコンロや流し台の改修、手洗い場の設置をしました。大鍋を使っても火傷の心配がなくなるなど安全面と作業効率がよくなり、外遊びから帰った子どもたちが手洗いすることも可能となり衛生面の改善ができました。子どもたちの遊びや話し相手には、団体施設を卒業した人がボランティアになっています。ボランティアがお兄さん、お姉さんのような存在になり、自分の悩みや家族関係の話ができる子どもが増えてきました。また、子ども達が楽しそうにしていることで、ボランティア側もやりがいを感じています。

助成事業名

ボランティア活動の拡大
「地域福祉・市民活動推進協働事業」

団体名

「特定非営利活動法人認知症の人と
みんなのサポートセンター」

活動内容

若年性認知症・初期認知症の人のための
居場所づくり

✿ 当事者や家族、 その支援者を支援する「居場所」

認知症の診断技術は向上し、早期に診断を受ける人は増えています。しかし、若年性認知症・初期認知症の人たちは、診断を受けた後すぐに介護保険を利用する状態でなかったり、介護保険の利用に抵抗がある場合が多く、せっかく診断を受けても、自宅に閉じこもり進行してしまうことがありました。そのため、既存のサービスがない人たちの受け皿として定期的に通える「居場所」が必要であると考え、生きがいとしての仕事の場である『タック』、当事者同士の交流の場である『ぱーくすカフェ』といった活動続け、今では年間延べ 400 人以上が通っています。

✿ 連携することで継続できる事業に

当事者や家族に求められる中、将来的に継続可能な事業としての基盤を作っていく必要がありました。そのためには、地域住民や専門職との連携が不可欠と感じ、基金を活用し、様々な人たちが集まる仕組みをつ

くりました。そして、障がい者の就労支援を実施している事業所と交流しての作業体験、認知症への理解を深めるための研修会を実施し、地域のボランティアの育成を行いました。

✿ 「居場所」を求める声に応える

強みは、長年の支援の経験を積み重ねており、『相談機関』と『居場所』が一緒にあること。市外に住む当事者や家族から「行っていいですか」という問い合わせもあります。各地の家族会を増やすためのお手伝いや、支援者のスキルアップのための勉強会、企業に向けた研修なども積極的に行っています。さらに事業を発展させるために、連携ができた機関とのネットワークを活かし、今後は仕事や販売先の開拓も行っていく予定です。



生きがいとしての仕事の場『タック』

団体の声

「子どもたちの課題は成長と共に変わっていきます。長く関係性をもつことができる、親子でつながり、心が開けるような居場所に発展させたい。他人と関わることが少なくなった今だからこそ、“おせっかいなおばさん”であり続けたいのです。」

助成金額 1,740,000 円
設立年月 2014 年 6 月
活動拠点 中央区

団体の声

「本来であれば、自分の住んでいる地域のそばに居場所があるのが望ましい。若年性認知症や初期認知症の人は、人数が少ないので、近くに居場所が見つけれず、みんな居場所を求めているんです。居場所が増えるように、研修会や勉強会を通した啓発活動を行うのも、自分たちの役割であると考えています。」

助成金額 375,478 円
設立年月 2007 年 12 月
活動拠点 東成区

助成事業名

地域福祉的な非営利法人支援事業
初動期支援

団体名

「特定非営利活動法人
カウンセリングサポートナウ」

活動内容

精神疾患による復職者への復職定着支援
および自助支援事業



さまざまな手法を用いたカウンセリングの勉強会

✿ 復職後のセルフケアを アシストするプログラム

うつ病などの心の病により休職した人が、復職後も安定して働き続けることができるように支援をしています。中小企業が多い大阪では、企業内メンタルヘルス支援が大企業と比べ未整備なところが多く、復職後の離職率が高くなっています。メンタルヘルス課題を抱えている人は、医療支援のほかその人に合わせた対処法と、ひとりで抱え込まないようサポートすることが必要です。うつ病など心の病により休職して、復職し就労をしている方、休職には至っていないが就労の継続に不安を感じている方のペースメーカー的な役割として、安定した職業生活と豊かな生き方のための就労サポートをするための支援プログラム「SAVE プログラム」(有料)を実施しています。

✿ 必要としている人にどう届けるか

課題は、必要としている就労者にどうやって活動を届けるかということ。公共機関は公平性の原則から有

料サービスを紹介することができないので、医療機関からの紹介や、口コミに頼らざるを得なく、公共機関のリワーク支援終了者が、アクセスしやすい状況を作ることが必要でした。そのため、基金を利用し、パンフレットやホームページの作成、啓発のための研修会開催など、広報活動の充実をはかりました。

✿ メンタルヘルスの課題を社会で支える

就労者の回復には、医療支援に加えて、継続して働くストレスや苦勞と上手につきあうその人仕様の対処法が大切であり、また、仲間とのつながりや様々な支援者が寄り添っていることが有効です。2016 年より企業のストレスチェックが導入され、今後、ますます、就労者のメンタルヘルス課題を社会で支える具体的な取り組みが必要になると考えています。

助成事業名

区の実情に応じた助成事業
(東淀川区 地域における食育推進活動)

団体名

「NPO法人
女性と子育て支援グループ・pokkapoka」

活動内容

妊婦・乳幼児世帯の引きこもり予防事業
(通称：Drop in Lunch)

✿ 子育て世代を対象にした 様々なサポート

助産院の産前産後ケアルーム、未就学児の保育ルーム、放課後児童預かり保育、親子つどいの広場など、子育て世代を対象にしたサポートを実施しています。小学校での子育てサークルから活動がはじまりました。子育ての不安軽減と虐待の減少を図り、自信ある子育てができるようサポートを行います。

✿ “Drop in Lunch” の役割

ハイリスクと思われる妊娠中から、乳幼児世帯を主とした子育て世帯に、月1回“Drop in Lunch”で食事を提供することにより、必要な支援や地域につなげていきます。食べ物を通して、孤立した親子が外に出る機会を作り、支援につなげ、地域とのつながりを構築するとともに、栄養についての理解を深めていきます。自分や子どもの身体を思いやり生活習慣を意識すること、自分はひとりではないこと、支援を求めていると感じてもらえることを目標としています。

✿ 必要な支援につなげるために

基金は、講師謝礼金・材料費などに活用しました。集会などに参加しづらい親子へ、“Drop in Lunch”に参加してもらうために、様々なネットワークを通じて情報を届けます。「どんな人かわからない」「怖い」といったことで参加をためらう人もいますが、招待状をポスティングや手渡しで一人一人根気よく届けています。食事を共にすることで、一緒に食べる楽しさや栄養面の意識を高めることができ、関係機関と連携し必要な支援につなげることができました。また、スタッフ間で招待状を渡した方の情報を共有し、一貫性ある対応ができるようにしています。



“Drop in Lunch” に集まる親子たち

団体の声

「今後は実績を積み、グループワークの実施や、eラーニングシステムを使ったホームワークなど、充実した支援をしたいと考えています。カウンセリングはまだまだ敷居が高いと思われるので、ハードルを高くしないで、和んでもらえる場所、ここに来たらほっとするような場所にしたい。」

助成金額 1,000,000 円
設立年月 2015 年 2 月
活動拠点 東成区

団体の声

「深刻な状態の親子ほど参加することは難しいですが、招待状を届けていくことで“あなたの側に誰がいる”ことを感じてもらいたい。枠組みに納めない本人の主体的な子育てを、脇から支えていきたいと思っています。」

助成金額 154,000 円
設立年月 2006 年 1 月
活動拠点 東淀川区

助成事業名

区の実情に応じた助成事業
(西淀川区 障がい児(者)への理解を深める活動支援)

団体名

「NPO 法人 おひさま」

活動内容

障がい児(者)への理解を深めるための、
自助グループによる交流会や、情報発信、研究会など



友だちと力をあわせて料理を作ります

療育としての料理

『みんながつながるゆたかな地域』をコンセプトに、NPO法人おひさま運営の放課後等デイサービス「さんさんくらぶ」では、障がいのある子どもたちが日々さまざまな活動をしています。その活動の柱は療育としての料理です。療育とは、将来自立生活ができるようにさまざまなトレーニングをすること。自立生活といっても、完全になんでも一人でできるようになるという考え方ではなく、友人、支援者の手を借りて実現する社会的自立を目指しています。いつも友だちと力を合わせておいしいものを作って食べる「さんさんくらぶ」の子どもたち。学校も、年齢も、障がいの特性もみんな違いますが、食卓を囲めば家族みたいです。

レシピブックの作成

基金を活用し、「さんさんくらぶ」で作っているごはん、おやつレシピブックを作成しました。子どもたちが

料理をすることは、机上で教わったこと（量を測る、計算するなど）を実際に行い、食材を切り、調理し、共同作業することでコミュニケーションをとり、できあがりには達成感が味わえる、感覚統合療法なのです。また、レシピブックは子どもたちが将来自立したときの手助けにもなります。

料理をつくることで繋がる

レシピブックを活用し、子どもたちが地域の人たちと一緒に料理を作るイベントを開催しました。地域の人たちに障がいのことを理解してもらい交流することができ、子どもたちは発表会のように張り切って、いまままで接触のなかった仲間同士でも共同作業ができました。今後は、ユニバーサルデザインを目指すべく、他の団体と協働してマルチメディアデジタイズし、視覚障がい者にも提供できるよう進めています。

団体の声

「レシピブックは図書館のLLブック（※）を参考にし、司書を変えての勉強会をしたり、子どもたちと共に考えて試作をし、実践を繰り返しました。それでも、障がいのあるすべての子どもたちに有効か？と問えば、まだまだそうではありません。今回は、道のりのスタートに立つことができたねとスタッフみんなで話しています。サービスを受けるばかりでは力にならない。ひとりひとりが輝けるために、依存でなく主体的に生きていくことが大切なのです。」

助成金額 500,000 円
設立年月 2011 年7月
活動拠点 西淀川区

※LLブック…知的障がい、学習障がいなど通常の活字図書の利用が困難な人にも理解できるように、図や写真を多く使うなどの工夫をして書かれた本

3. 説明会・交流会を開催しました

基金を必要とする市民活動団体の数は年々増加傾向にあるが、基金の存在を知らない・どういう事業を進

4. もっと基金を知ろう！

アンケートの集計結果

(1) 調査の目的

平成 27 年度より基金の事業枠が 5 事業から 12 事業へ拡大されたことを機に、毎年アンケート調査を行い、調査結果の分析や評価をして、ボランティア団体の基金に対しての課題や問題点など現状を把握し、大阪市ボランティア活動振興基金が、よりよい基金となるよう声を反映させ基金事業を推進させるものです。

(2) 調査方法

調査対象：平成 28 年度交付団体 124 団体

平成 28 年度不交付団体 31 団体

調査方法：郵送調査

調査期間：平成 29 年 10 月 3 日(火)～10 月 27 日(金)

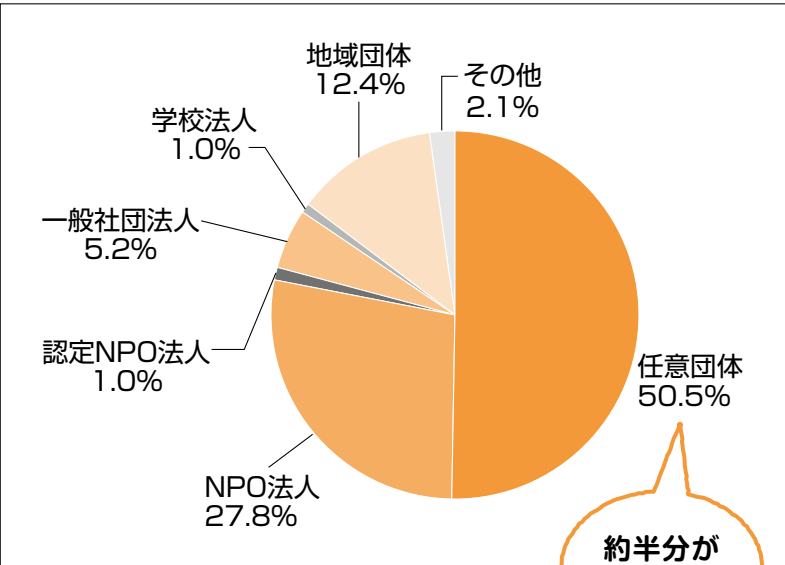
回収率：平成 28 年度 交付団体 124 団体 回答数 97 団体 回答率 78.2%

平成 28 年度 不交付団体 31 団体 回答数 12 団体 回答率 38.7%

※調査にご協力頂きました団体のみなさま、ありがとうございました。

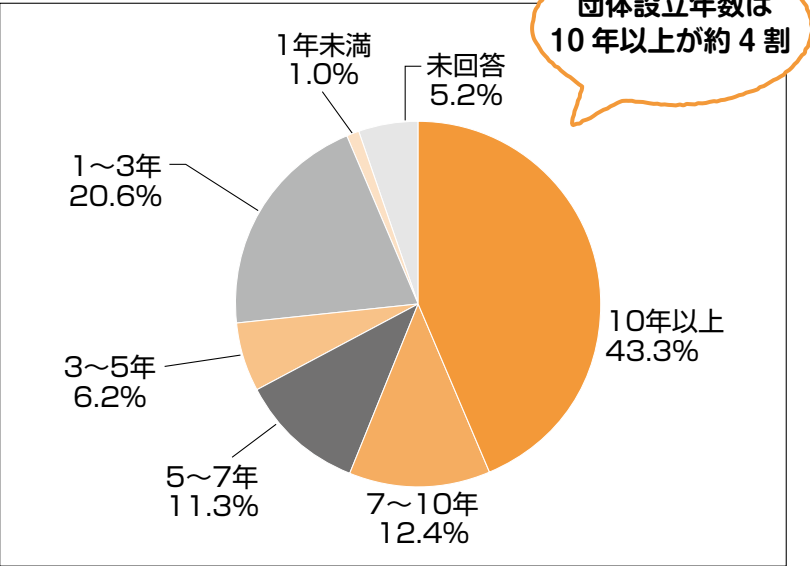
(3) 交付団体についての調査結果のまとめ(抜粋)

① 団体種別



※その他：公立学校、PTA

② 設立年数



③ 基金のどの部分に魅力を感じて申請しましたか

- ・資金不足でできなかった事業を企画できる ×7
- ・自分達の目的とする活動にあてはまる ×6
- ・活動を継続展開・拡大

⑤事業達成のうえで課題になったこと

- ・ 人員の確保 ×14
- ・ イベントの周知方法・ 集客 ×13
- ・ 運営資金の確保 ×5
- ・ 練習場所の確保 ×4
- ・ 他団体との連携 ×3
- ・ より多くの方々に自分たちの活動を理解していただくこと ×3
- ・ 自立に向けての体制が出来ていない
- ・ 作業スケジュール管理
- ・ 他団体と類似している活動がある事から、差別化を図るための内容が必要であった
- ・ 開催場所が商店街であり、地域のニーズや出店者の数の増加に対応していくためには、各商店街からの理解を得ていく必要が出てきた

⑥上記課題をどのように乗り越えましたか

- ・ チラシをつくって、地域へ回覧した ×8
- ・ グループ活動なので皆で協力しあった ×7
- ・ 横との連携をつなげていった。（他団体、支援者、専門職など） ×7
- ・ メンバー同士の話し合い ×4
- ・ つながりのある団体等に協力してもらった ×4
- ・ 地域の協力 ×3
- ・ 新たなイベントを開催した ×3
- ・ ボランティア募集のチラシを作り、声かけをした ×2
- ・ Facebook や LINE など、SNS での広報 ×2
- ・ 知り合いなどに声をかけ、新しい関係の構築をおこなった ×2
- ・ 大学生ボランティアセンターへの呼びかけ、学生から周囲への呼びかけ
- ・ 地域の介護老人保健施設のホールをお借りでき、カフェ開催日には職員にも協力いただいている
- ・ イベントでリーフレットの配布、ホームページの紹介を行い、支援者を少しずつ増やしている
- ・ 具体的な活動計画を策定し、商店街への理解を求めている
- ・ パンフレットを関係機関に持参して活動内容を説明しました
- ・ 助成報告の流れを共有して、業務分担を計った。

⑦達成できなかったこと

- ・ 自己資金できちんとまわるシステムづくり
- ・ コミュニティビジネスとして、自主財源を確立すること
- ・ 学生と地域の活動、福祉施設等へ繋げる事が難しかった
- ・ だんだん依頼が増えてきてありがたい反面、活動者不足で依頼された施設全部には行けなかった
- ・ 食事提供と遊びで目一杯で、当初かかっていた「学習支援につなげたい」という所が達成できなかった

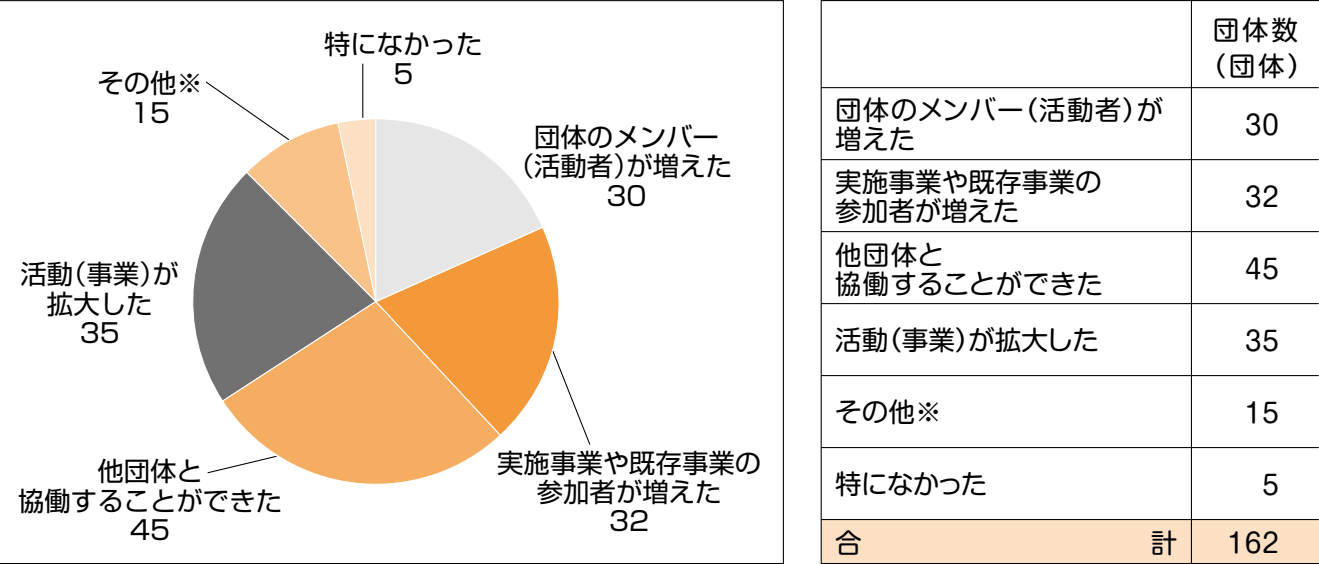
⑧達成できなかった理由

- ・ 事業計画の予測が適切ではなかった ×2
- ・ アイデア不足、人手（ 具体的、物理的に動ける人手 ）不足
- ・ 活動者の高齢化と減少。また、利用者も高齢化で減少した。
- ・ 会員数の伸び悩みと、会費徴収をしていないので収入が不安定
- ・ 実施の時間帯やテーマが、ニーズとあっているのかわかりにくい

⑨事業を実施して今後取り組みたいと思うことはありますか

- ・ 居場所づくり ×5
- ・ 市民活動に積極的に関わる若い世代を育てていく事業に取り組みたい ×3
- ・ 行政との連携を含めた、子ども支援のネットワークづくり ×2
- ・ 区社会福祉協議会と連携し、地域のボランティアの育成講座等を実施し、地域の活性化につなげたい
- ・ 多世代交流をより活発にしていきたい
- ・ 音楽イベント等を通して高齢者や障がい者、子ども達が地域とつながる様な取り組みを続けていきたい
- ・ 区内に数か所（ 出来れば中学校区に1ヶ所 ）こども食堂が出来るように働きかけをして行きたい
- ・ 親子と一緒に畑遊びや自然にふれる活動
- ・ 妊婦さんや赤ちゃんママの交流に注力したい。
- ・ 子育て中の若いママ・ パパたちが将来市民活動の担い手に育ってくれるようなワークショップ
- ・ 災害についてプログラムを取り入れたい
- ・ 施設と地域がつながるきっかけをつくる。またそのつながりから地域の行事に参加したり、小中学校で開催する福祉教育に施設職員が参加したりと顔の見える関係づくりを目指す

⑩振興基金の交付を受けたことで得られた効果について（複数回答あり）



【その他※ 内容】

- ・ 会の信用度が高まった ×2
- ・ 参加者から信頼を得た。事業が安定した
- ・ 資金面で必要以上の不安を抱えることなく活動できたおかげで、団員の活動への姿勢が活発化した。
- ・ 活動を認知して頂けているという自覚がメンバーに生まれた
- ・ 住民へ周知することができた
- ・ 学生等のボランティア参加者が以前よりも増えた
- ・ 学生の事業参加の意識が向上した
- ・ 子育てサロンやイベントの参加者が増えてきた

基金を受けたら
こんなに
良いことが!

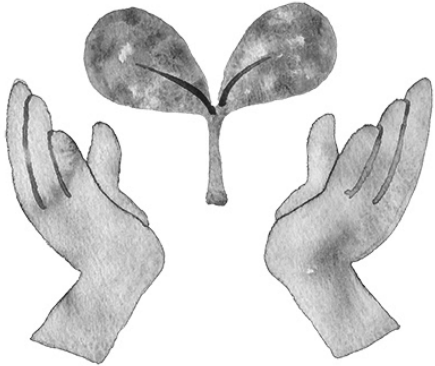
大阪市ボランティア活動振興基金 助成内容一覧

※平成30年度の募集要領を参考で掲載します。(内容が変わる事があります)

事業名		事業内容
リーダー育成	1	これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 企業や商店、勤労者等が中心となって行う福祉ボランティア活動団体支援事業【事業助成】
	2	これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 居場所の運営ボランティア養成支援事業【事業助成】
参加しやすい仕組みづくり	3	これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 社会参加情報システムの構築支援事業【事業助成】
	4	これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 社会参加の空間整備支援事業【団体助成】
	5	これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 生徒・学生の（福祉）ボランティア活動支援事業【事業助成】
ボランティア活動の拡大	6	ボランティア活動促進事業【団体助成】
	7	これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 災害時の活動者養成事業【事業助成】
	8	地域福祉・市民活動協働推進事業【事業助成】
	9	地域福祉的な非営利法人支援事業 初動期支援【団体助成】
	10	地域福祉的な非営利法人支援事業 コミュニティビジネス支援【事業助成】
	11	地域福祉的な非営利法人支援事業 福祉課題に取り組む調査研究支援事業【事業助成】
	12	これからの福祉 V 活動を活性化する助成事業 区の実情に応じた助成事業【団体助成】
	13	基金事業

申請から交付・報告までの流れ

- 1 助成金情報(要領)を入手します。(3月～4月上旬)
- ・ 来年度の事業計画を立てます。
- ・ 大阪市ボランティア・市民活動センター窓口、ホームページ、各区社会福祉協議会などから要領を入手します。
- 2 申請書を期日までに提出します。(※平成30年度は4月13日締切)
- ・ 要領をよく読み、合致する事業に応募します。
- ・ 提出後に不備・不明な点があった場合、再提出をお願いする場合があります。
- 3 審査があります。(6月)
- 4 助成金交付(7月)
- ・ 審査に通った団体に郵送で通知します。通知文に従い請求をします。
- 5 活動します。
- 6 活動の終了後、活動報告書を提出します。
- ・ 活動内容は必ず記録しておいてください。
- ・ 領収書やレシートは必ずもらっておいてください。(不足した場合は返金になります。)



ご存知ですか？“ボラ基金”
平成28年度 大阪市ボランティア活動振興基金・報告

発行：平成30年2月
社会福祉法人大阪市社会福祉協議会
大阪市ボランティア・市民活動センター
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 12-10
大阪市立社会福祉センター内
TEL：06-6765-4041
FAX：06-6765-5618
代表 mail：ocvic@osakacity-vnet.or.jp
URL http://www.osakacity-vnet.or.jp/

【問合せ・申請用紙交付・申請窓口】

大阪市ボランティア・市民活動センター

（開所時間：月・水・金 9：30～20：30、火・木・土 9：30～17：00）

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 市立社会福祉センター1階

TEL:06-6765-4041 FAX:06-6765-5618

基金 HP：<http://www.osakacity-vnet.or.jp/kikin/index.html>

メールアドレス：ocvic@osakacity-vnet.or.jp

◎スタッフブログ <http://ocvic.blogspot.com/>

◎Facebook 「大阪市ボランティア・市民活動センター」で検索

◎ツイッター 「@ocvic1998」で検索

大阪市ボラ基金

検索



HPのQRコード

【アクセス】

最寄駅：大阪市営地下鉄谷町線・千日前線「谷町九丁目」駅
または、近鉄電車「大阪上本町」駅 11 番出口から東へ250m



- ◆大阪市社会福祉協議会のホームページから、民間の助成金を検索することができます

<http://www.osaka-sishakyo.jp/jyoseikin/>

- ◆「普段着のわたし、ステキにいいこと」をコンセプトにしたボランティア・市民活動情報誌『COMVO（コンボ）』には、ボランティア・市民活動に関する新鮮な情報や助成金情報などを掲載しています。（8月と1月を除く毎月15日発行）



*助成団体については、団体名と事業内容を大阪市ボランティア活動振興基金ホームページで公開します。

*申請書類等で得た個人情報、本事業以外には使用いたしません。